



 **不二製油株式会社**

個人投資家向け 会社説明会

2025年5月

不二製油株式会社（証券コード：2607）

コーポレートコミュニケーション部 IR課

千野 万里恵

1章

不二製油のご紹介

2章

2024年度 連結業績

3章

成長戦略と課題への対処

4章

サステナブルな食の未来に向けて

1章

不二製油のご紹介

2章

2024年度 連結業績

3章

成長戦略と課題への対処

4章

サステナブルな食の未来に向けて

会社概要

不二製油株式会社

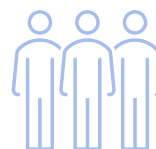
商号	不二製油株式会社
証券コード	2607（東証プライム）
社長執行役員 CEO	大森 達司
本社	大阪府泉佐野市



設立
1950年



従業員
5,654人



2025年3月31日時点

業績
売上高 6,712億円

営業利益 99億円



2024年度実績

特許取得数
3,488件



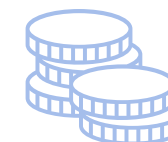
2025年3月31日までに登録された
不二製油（株）の全世界における
特許件数の合計。実案・意匠を含む。

海外売上高比率
67%



2024年度実績

時価総額
約2,600億円



2025年5月20日時点

不二製油グループの主な拠点

不二製油株式会社



14カ国38社

2025年3月31日時点の
連結子会社



アメリカ



ベルギー



ブラジル



ドイツ



ガーナ

など



シンガポール



マレーシア



インドネシア



中国



オーストラリア



タイ

など

株主優待・配当

不二製油株式会社

優待品

チョコレートや大豆ミートなど当社グループ関連製品をお届け。

保有条件：100株以上を半年以上継続保有

基準日：3月末日

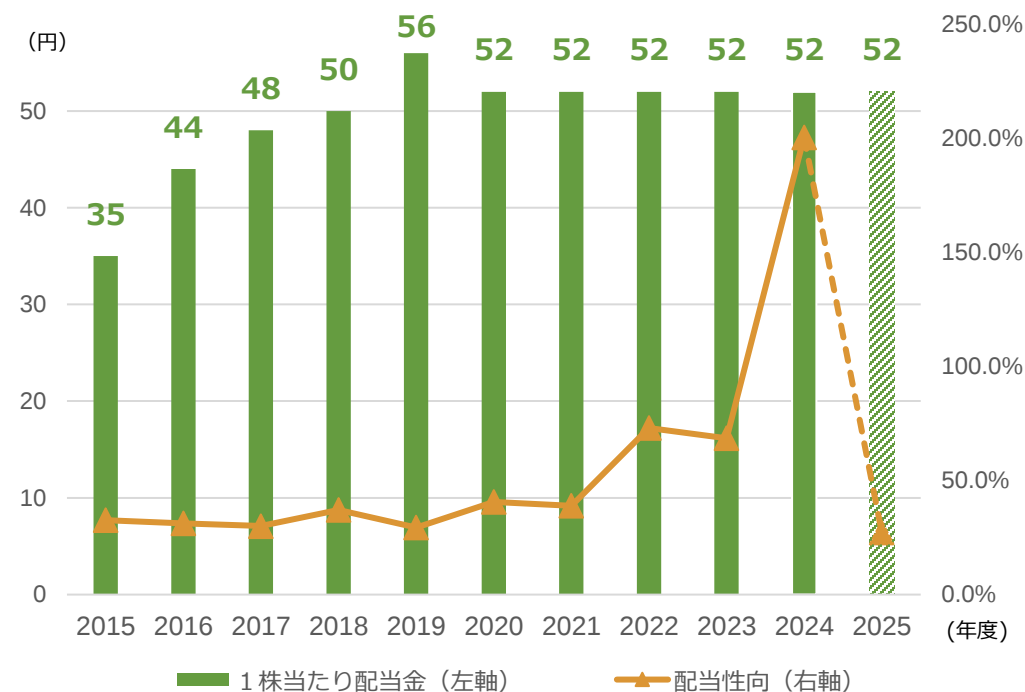
同年度の9月末日および3月末日を基準日とする株主名簿に同一株主番号・100株以上保有で記載された株主様



* 詳細は当社HP IR情報「個人投資家のみなさまへ」をご覧ください
<https://www.fujioil.co.jp/ir/stock/benefit/>

配当

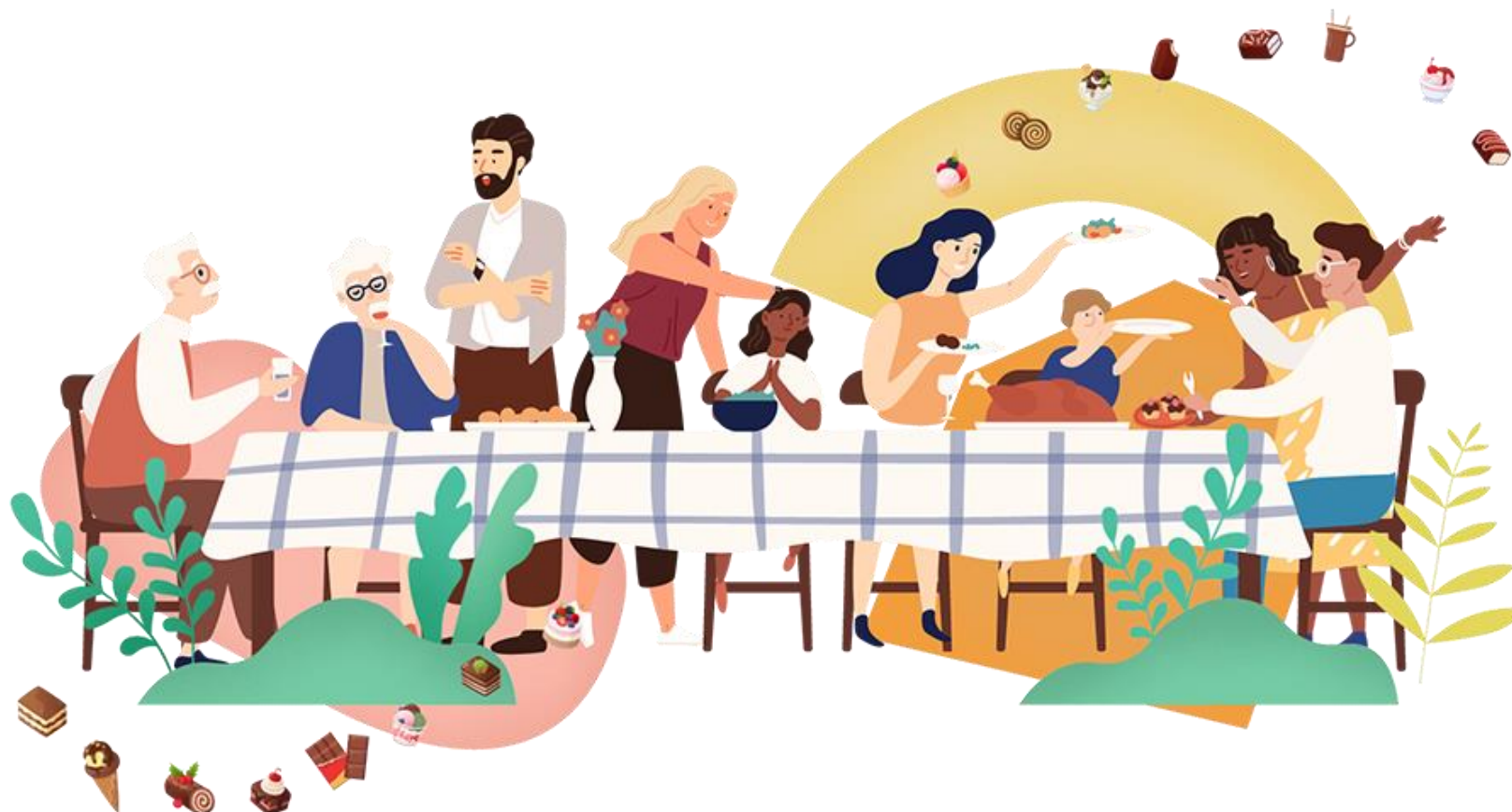
安定的かつ継続的な配当の実施。



* 2025年度は予想値

会社紹介動画

不二製油株式会社



<https://api01platform.stream.co.jp/apiservice/plt3/NDU1MA%3d%3d%23MTI4%23280%23168%230%233FE2A0D9E400%23MDoyOjc6YTpmOzEwOzEwOzEw%23>

不二製油の歴史

不二製油株式会社

「人マネをしていては道はない」 独自の開発を重視

最後発の油脂会社として創業

原料統制下で油脂原料が不足、技術も設備もなく、
厳しい事業環境。



1950年創業当時の不二製油

「人マネをしていては道はない」

独自の研究開発を重視。当時の日本で食用の実用化が
なされていなかった南方系油脂に着目。



二代目社長
西村 政太郎



パーム

日本初の多くの製品を創出

不二製油株式会社

研究開発・製造技術を培い、多くの製品を生み出し、日本の食文化に貢献。



チョコレート用油脂



高脂肪クリームが無菌充填



コーティングチョコレート



植物性チーズ
ティラミスブームを巻き起こす

主要原料

不二製油

顧客

消費者

B to B の食品中間素材メーカー

植物性油脂事業



食用加工油脂



チョコレート用油脂

業務用チョコレート事業



チョコレート

乳化・発酵素材事業



クリーム



フィリング

大豆加工素材事業



大豆たん白素材



機能剤

食品メーカーなど

- ・飲料メーカー
- ・製菓メーカー
- ・製パンメーカー
- ・リテール
- ・外食チェーン
- ・学校給食

etc.



課題解決型の提案スタイル

不二製油株式会社

フジサニープラザを活用した課題解決型提案により、BtoBとして顧客に信頼される存在に。

1977年、顧客との共同開発をする拠点として、フジサニープラザ東京を開設。
その後、グローバルにフジサニープラザを拡大。



1970年代、ドイツ人マイスターを招聘し
洋菓子講習会を開催

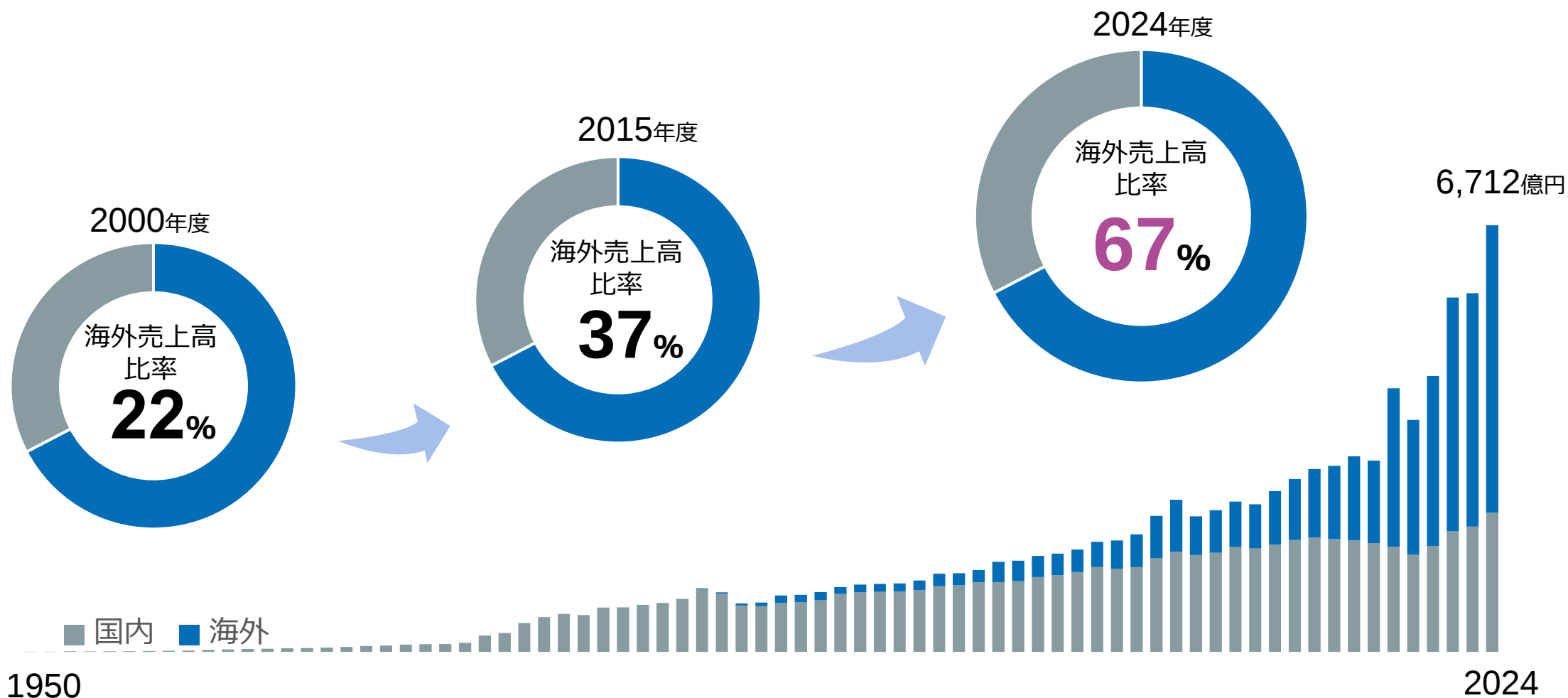
フジサニープラザ所在地



海外事業を拡大

不二製油株式会社

1980年代より本格的に海外進出。2010年以降、M&Aを進め海外事業を拡大。





植物性油脂事業

売上高 **2,073**億円 営業利益 **263**億円

シェア
チョコレート用油脂CBE*1 | 日本 **1**位
世界 **トップ3**

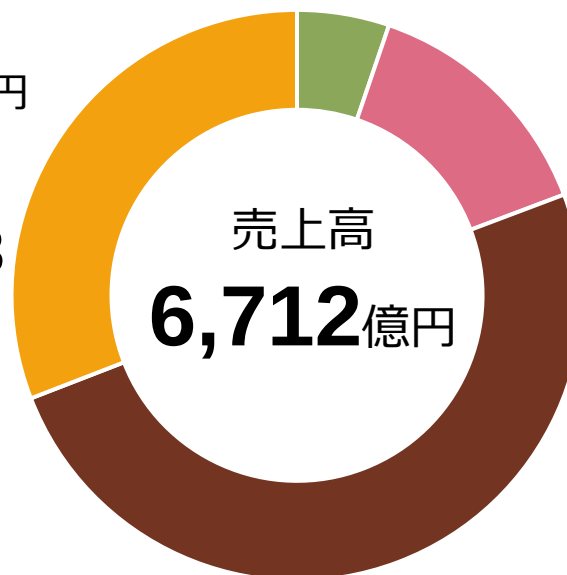


業務用 チョコレート事業

売上高 **3,347**億円 営業利益 **▲158**億円

カカオ特殊要因を除く実質営業利益 **147**億円

シェア
業務用チョコレート | 日本 **1**位、世界 **トップ3**



大豆加工素材事業

売上高 **351**億円 営業利益 **7**億円

シェア
水溶性大豆多糖類 | 日本 **1**位
世界 **1**位



乳化・発酵素材事業

売上高 **942**億円 営業利益 **34**億円

シェア
業務用ホイップクリーム*2 | 日本 **1**位

*1 Cocoa Butter Equivalent。カカオバターに似た性質を持つ代用可能なチョコレート用油脂。

*2 植物性脂肪を含むホイップクリームを指す。

不二製油のソリューション ～チョコレート～

不二製油株式会社



チョコレート菓子
暑いと溶ける
寒いと口どけしづらい



チョコレート用油脂の組み合わせにより
**季節・気候・食べ方に応じた
おいしさを実現**



チョコレートアイス
噛んだ時にコーティング
チョコレートが剥がれる



チョコレート用油脂
(植物性油脂事業)



コンパウンドチョコレート
(業務用チョコレート事業)

ホイップクリーム

当日おいしいホイップクリームも
翌日になると、パサパサになる



油脂や乳化・発酵の技術により

**みずみずしさを保つ
ホイップクリームを設計**



ホイップクリーム
(乳化・発酵素材事業)

酸性乳飲料

時間がたつと、乳の成分が沈むため
長期流通が難しい



おからを原料にした機能剤により

**時間がたっても
安定した状態を保つ**



機能剤
(大豆加工素材事業)



1章

不二製油のご紹介

2章

2024年度 連結業績

3章

成長戦略と課題への対処

4章

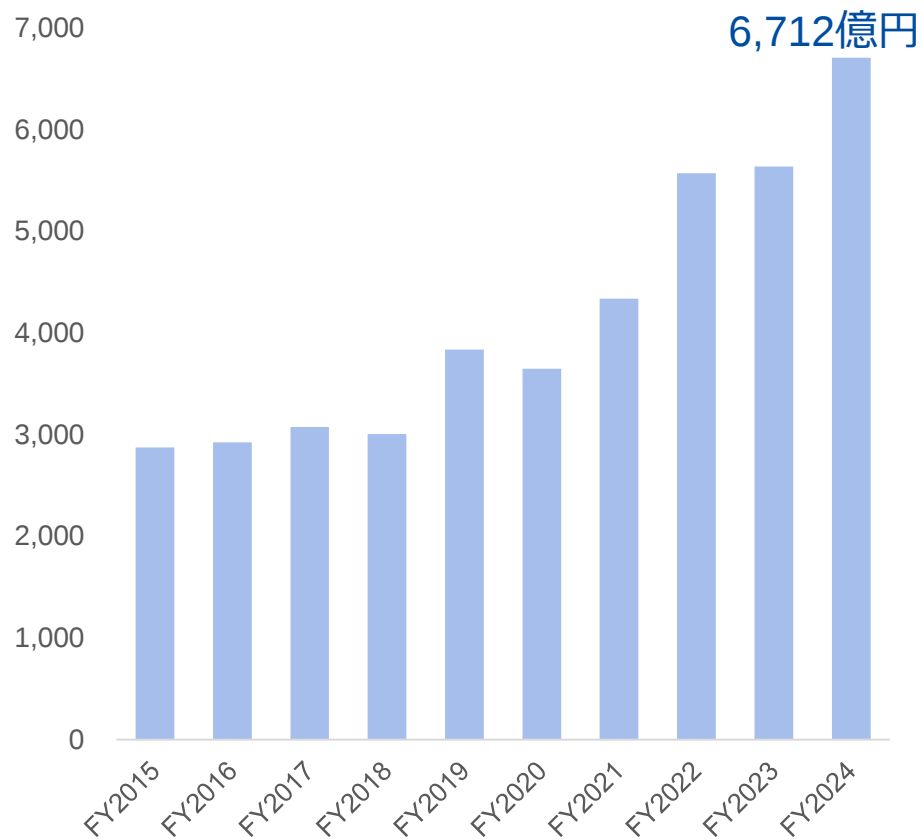
サステナブルな食の未来に向けて

業績推移

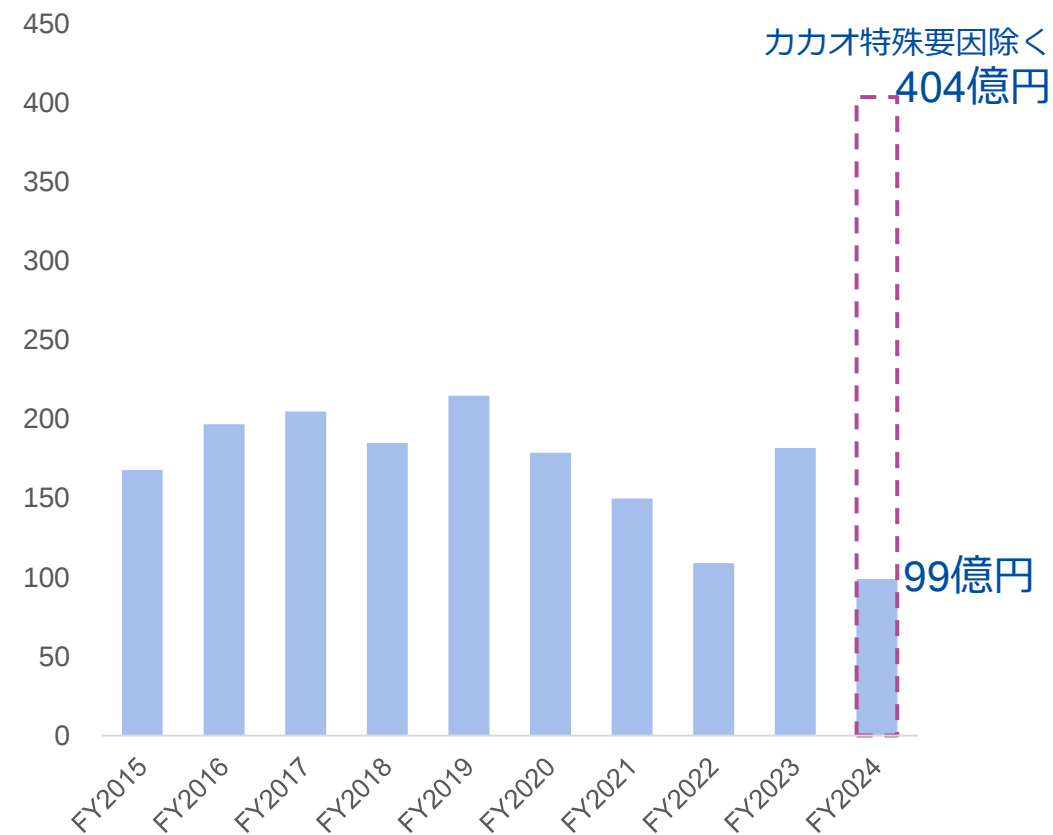
不二製油株式会社

売上高は拡大。営業利益は、既存事業は順調も、ブラマー（米国）の業績低迷により低調に推移。

売上高



営業利益



*FY2019実績は海外子会社15ヶ月決算のため、12ヵ月決算期変更後の実績

2024年度 実績／事業別

不二製油株式会社

植物性油脂事業は過去最高益を更新する一方、力カ才特殊要因が発生。



植物性油脂事業

最高益

売上高		営業利益	
FY2023	FY2024	FY2023	FY2024
1,854	▶ 2,073	154	▶ 263
億円		億円	



業務用チョコレート事業

売上高		営業利益	
FY2023	FY2024	FY2023	FY2024
2,534	▶ 3,347	18	▶ 158
億円		億円	

FY2024
力カ才特殊要因を除く **実質営業利益** 147 億円



乳化・発酵素材事業

売上高		営業利益	
FY2023	FY2024	FY2023	FY2024
899	▶ 942	38	▶ 34
億円		億円	



大豆加工素材事業

売上高		営業利益	
FY2023	FY2024	FY2023	FY2024
355	▶ 351	10	▶ 7
億円		億円	

1章

不二製油のご紹介

2章

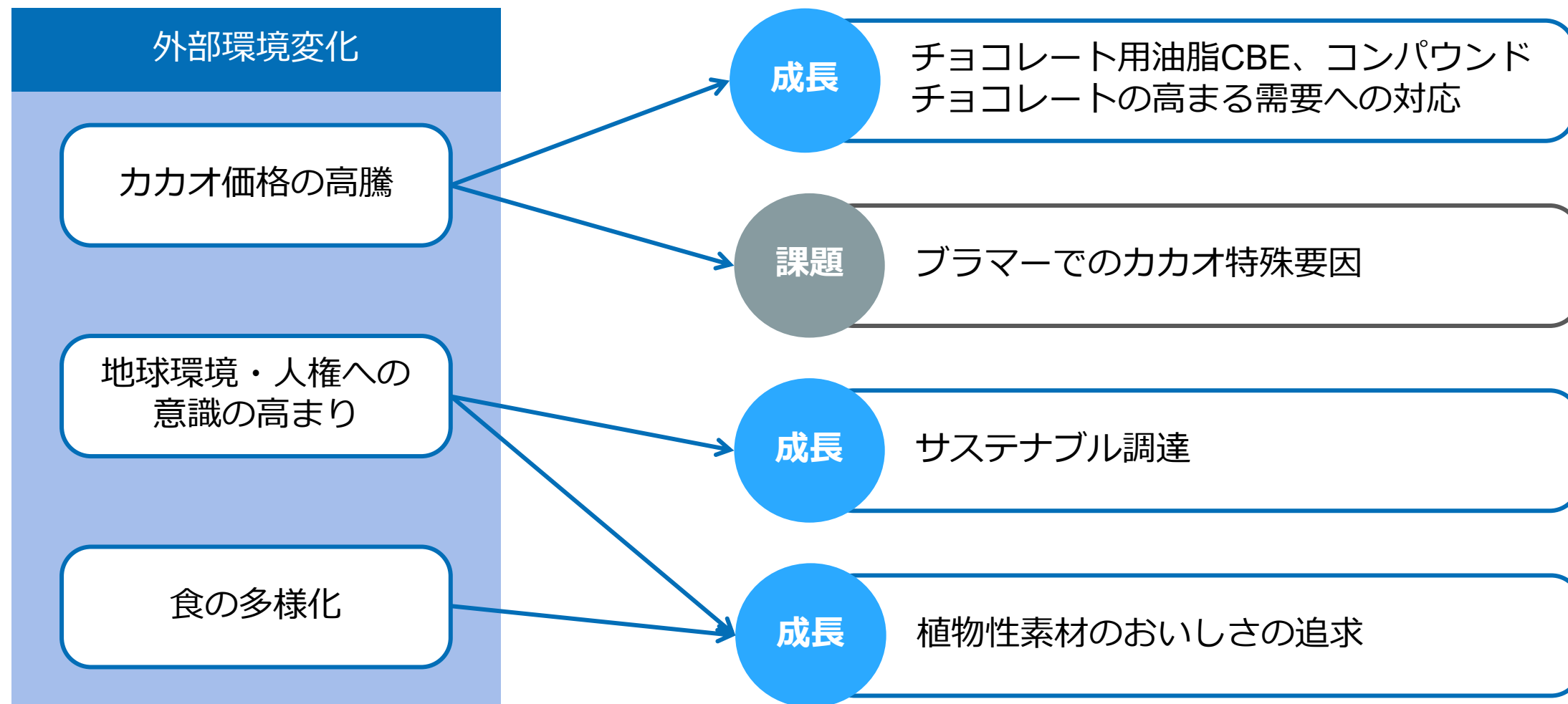
2024年度 連結業績

3章

成長戦略と課題への対処

4章

サステナブルな食の未来に向けて



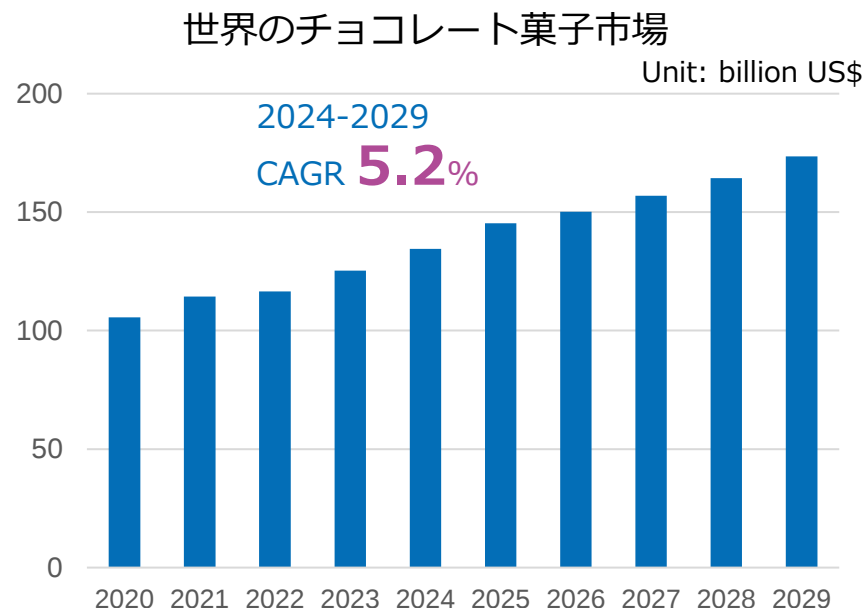
市場環境

不二製油株式会社

チョコレート菓子市場は成長する一方で、カカオ豆の生産数量の大幅な拡大は難しい。

チョコレート菓子マーケット予測

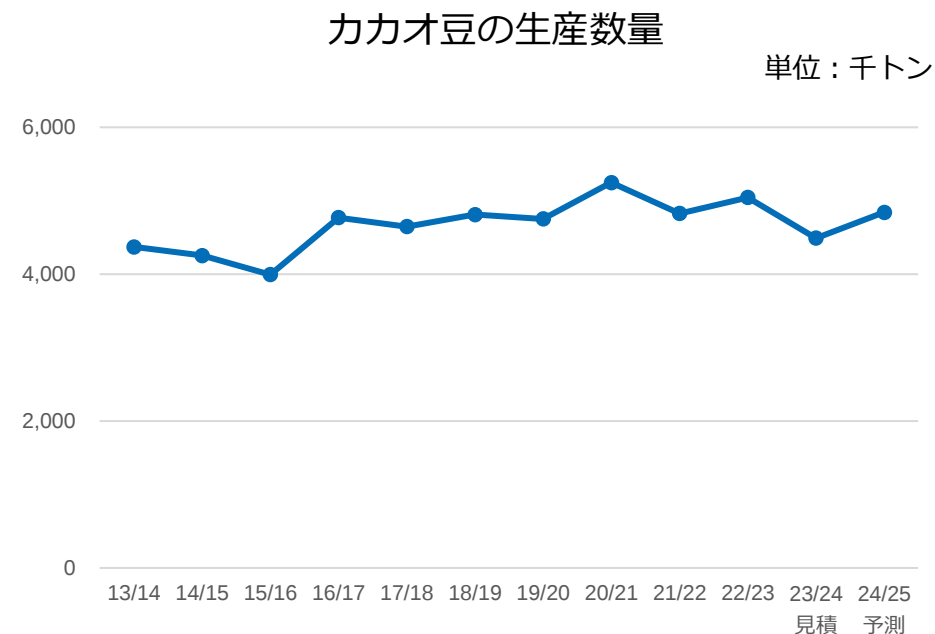
人口増加、経済成長に伴い、チョコレート菓子の市場規模は拡大する見通し。



参照：Euromonitor Chocolate Confectionery 2024
Geography: world, category: chocolate confectionery
Data type: Retail Value RSP

カカオ豆の生産数量

カカオは植樹から収穫まで2～4年かかり、またプランテーション化がされにくいいため、生産数量を大きく伸ばすことは難しい。

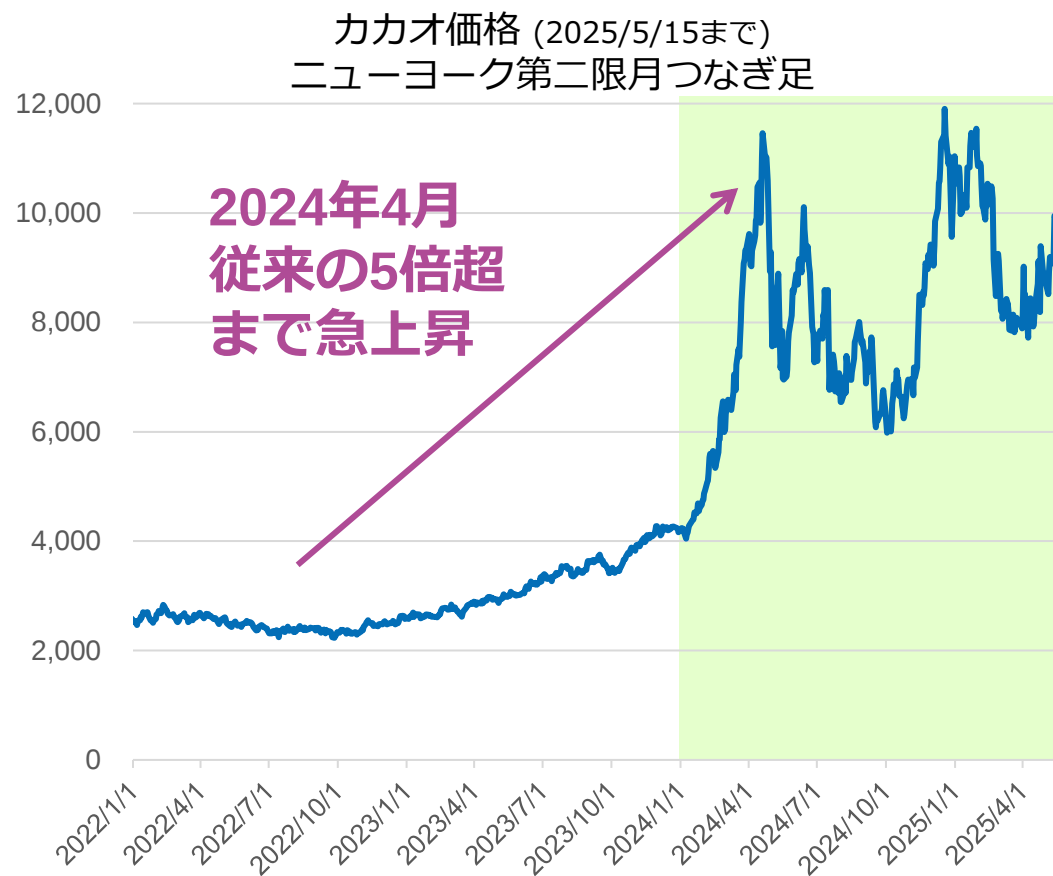


参照：国際ココア機関（ICCO）

カカオ価格の高騰

不二製油株式会社

カカオ相場は、2024年初より急騰。不二製油では、機会の獲得と課題への対応に取り組む。



参照：ICE Future U.S.



機会

チョコレート用油脂CBE、
コンパウンドチョコレートの
需要の高まり



課題

ブラマー（米国）を中心に
原料や関連コストの上昇

成長

チョコレート用油脂CBE



植物性油脂事業

不二製油株式会社

チョコレート用油脂CBEの販売数量が大きく伸長し、植物性油脂事業は2024年度過去最高益。

チョコレートの主な原材料

2024年度実績



ココアパウダー



砂糖



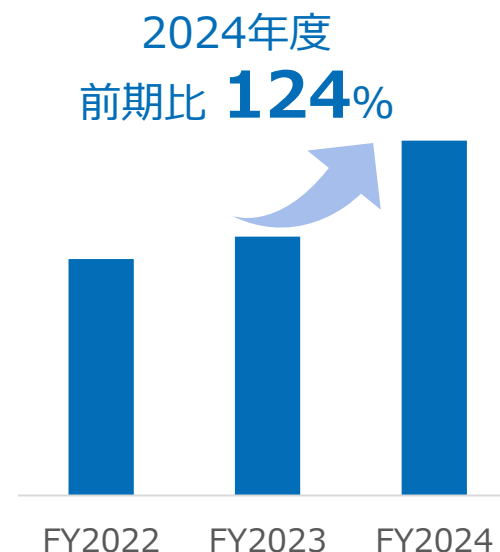
カカオバター



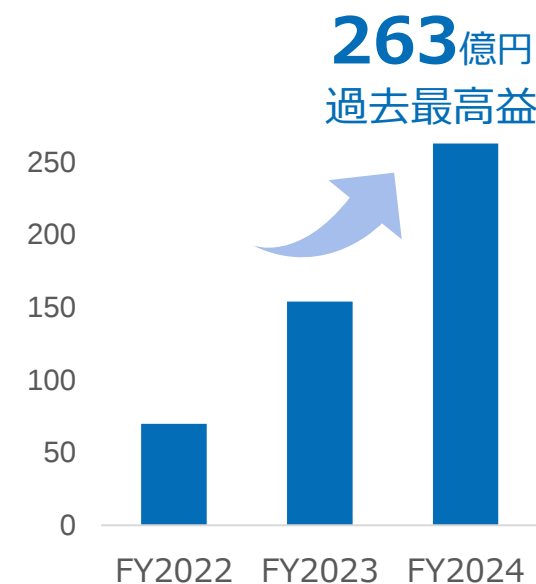
チョコレート用油脂

カカオバターに代替可能な
チョコレート用油脂CBE*の
問い合わせが急増

CBEの販売数量
(不二製油グループ会社向けの販売を含む)



植物性油脂事業
営業利益



* Cocoa Butter Equivalent. カカオバターに似た性質を持つ代用可能なチョコレート用油脂。

成長

コンパウンドチョコレート



業務用チョコレート事業

不二製油株式会社

価格競争力があり、幅広い用途で利用できるコンパウンドチョコレートの販売数量が伸長。

コンパウンドチョコレート

2024年度実績

主な原材料



カカオの使用割合を抑え、コストダウンが可能

主な使用用途



機能性を付与し、幅広い用途での使用が可能

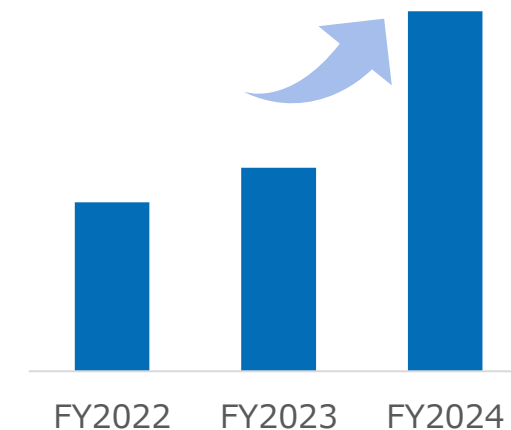
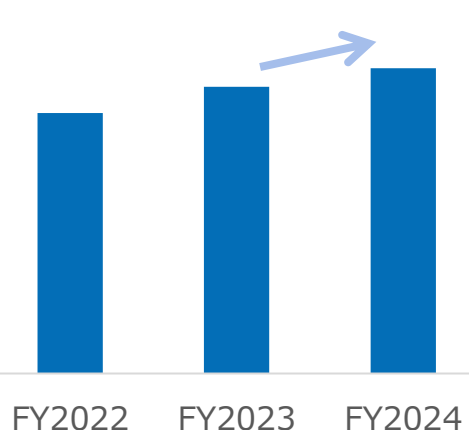
➡コンパウンドチョコレートの需要が増加

業務用チョコレート事業
販売数量（ブラマーを除く）

業務用チョコレート事業
営業利益（ブラマーを除く）

2024年度
前期比 **105%**

2024年度
前期比 **177%**





世界最大のマーケットである米国への足掛かりとして、2019年にブラマーを買収。

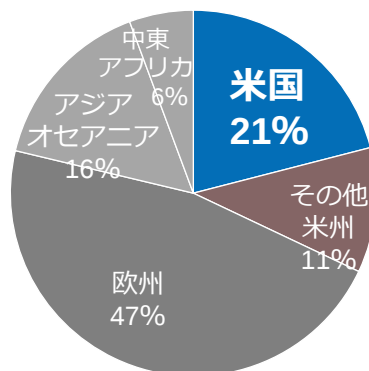
ブラマー概要

創業	1939年
事業	業務用チョコレート事業
拠点*	米国3工場、カナダ1工場、中国1工場
シェア*	米国シェア2位（チョコ2位、カカオ1位） 世界シェア3位

* 買収当時

米国市場

地域別チョコレート菓子市場規模



米国は単一国家で
世界最大のマーケット

参照：
Euromonitor Chocolate
Confectionery

買収の目的

不二が持つ製造ノウハウや油脂技術をブラマーに応用し、米国でのコンパウンドチョコレートの成長を目指す。

ブラマーの強み

- ・米国での高いシェア
- ・カカオ豆のサステナブル調達

ブラマーの課題

- ・工場の生産性
- ・油脂技術のノウハウ

不二製油の強み

- ・工場の生産性（安全性・効率性）
- ・油脂技術を活用したコンパウンドチョコレート



2024年3月に、ブラマー構造改革を発表し、課題への対応を進める。

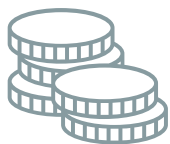
2019年～2023年

コロナ禍など外部環境の変化に柔軟に対応できず、
ブラマーの収益力が悪化。

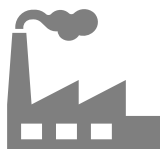


コロナ禍での

- ・米国での雇用環境の変化、人材不足
- ・日本からの専門人材派遣の遅れ



- ・原材料価格の上昇
- ・米国での金利の上昇



工場生産性が低迷、収益力が悪化

ブラマー構造改革

2024年1月に減損計上、3月に5か年計画の構造改革
を打ち出し、課題への対応を加速。シカゴ工場閉鎖
によるコスト削減効果は、2024年度に顕在化。

構造改革の方針

1. シカゴ工場の閉鎖

2. カカオ加工事業の適正化

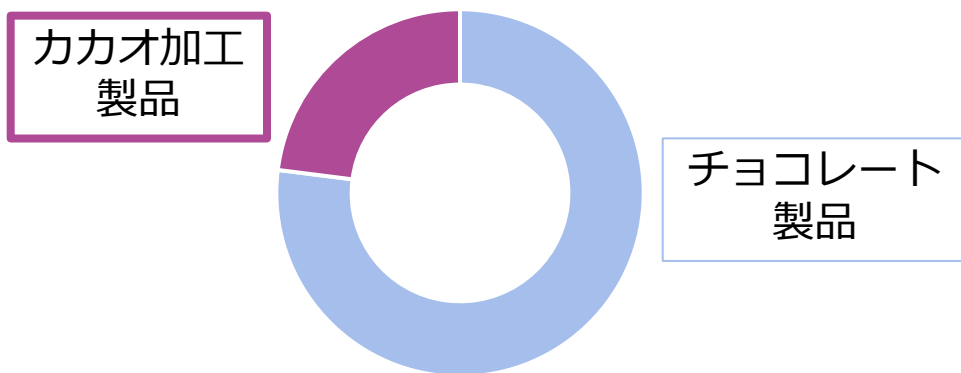
3. 差別化戦略の推進



2024年度、カカオ特殊要因により大きな損失が発生。

カカオ特殊要因

構造改革による改善の一方で、カカオ価格高騰が新たな課題に。他の不二製油グループと異なり、ブラマーは**カカオ加工事業を持つため、価格変動の影響を受けやすい**。

ブラマーでの
製品別数量比率 (2023年度)

2024年度実績と2025年度の見通し

2024年度、カカオ関連の特殊要因を除く営業利益は改善するも、**カカオ特殊要因が業績に大きく影響**。施策の実行により、**2025年度には軽減**する見通し。

単位：億円

	FY2023	FY2024	前期比
売上高	1,321	1,809	+489
営業利益 (のれん償却除く)	▲52	▲312	▲259
カカオ特殊要因	-	▲305	
カカオ特殊要因を除く 営業利益 (のれん償却除く)	▲52	▲6	+46

施策

- ✓ カカオ在庫の縮減
- ✓ 販売価格改定
- ✓ 差別化製品の強化

2025年度は、**事業利益15億円**、カカオ特殊要因は**▲30億円**（対前年+275億円の改善）を見込む。

主原料の生産地で抱える社会課題に対して、先駆けた取り組みを推進。

主原料を取り巻く社会課題



- ・グローバル企業・欧州を中心に、社会課題への意識の高まり
- ・欧州森林破壊防止規則（EUDR）の施行予定

不二製油の取り組み

パーム油を中心に、日本企業では先駆けて取り組みを実施。

パーム油の農園までの
トレーサビリティ

95%



2023年度実績

RSPO認証油比率

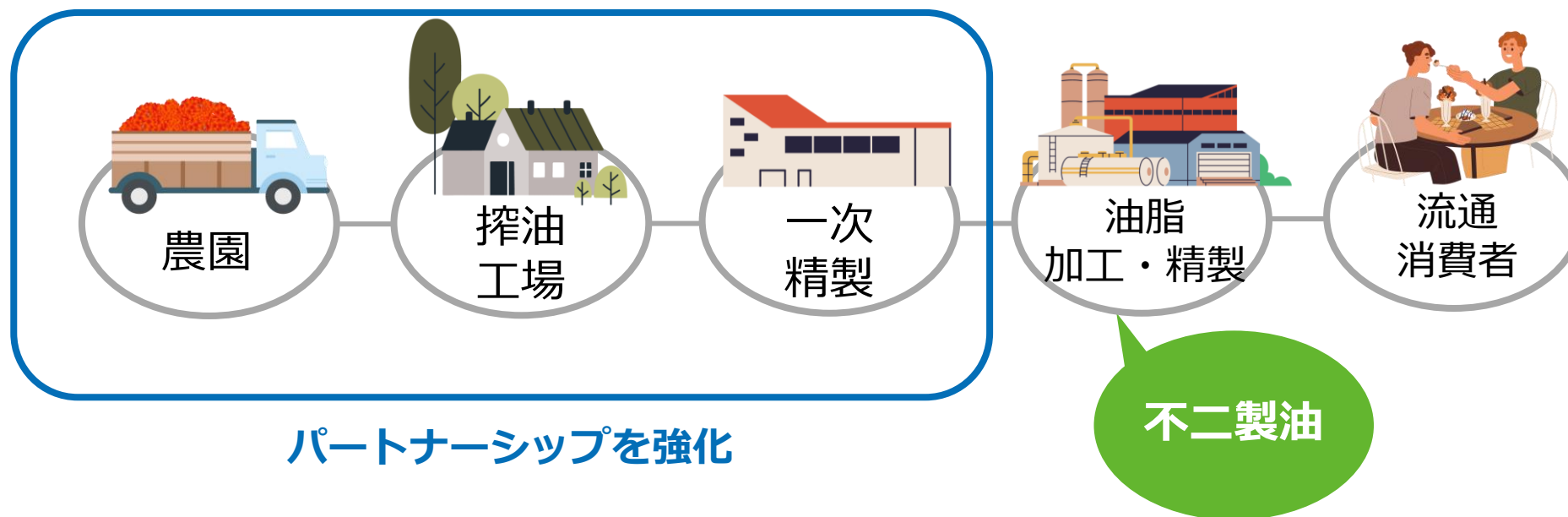
60%



2023年度実績

サステナブルで高品質なパーム油の確保が、競争優位性を高める。

パーム油のサプライチェーン



2018年度 ユニフジ（マレーシア）稼働、2026年度 JPGフジ（マレーシア）稼働予定
サプライチェーンの強化が、植物性油脂事業の収益に貢献

植物性食品の「おいしい」多様な選択肢を提案する、GOODNOON活動を推進。



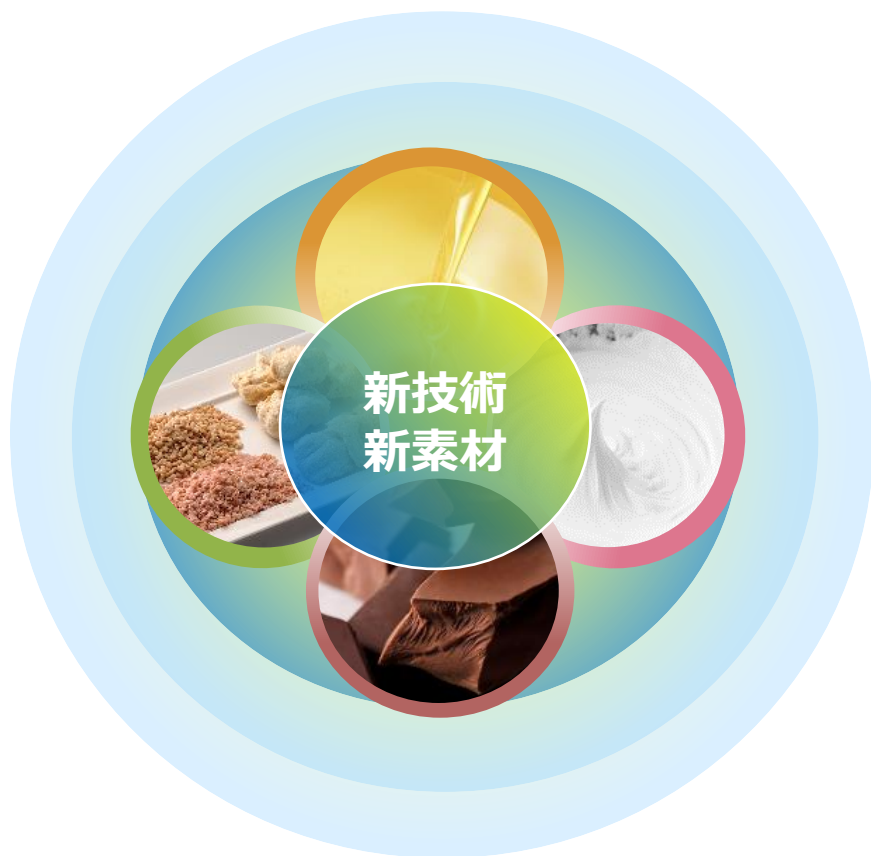
GOODNOONが目指す世界

The World We Aim For

GOODNOONが提供するのは、
おいしくてわかりやすい植物性食品。
植物性食品の安定した提供により、
人と地球の健康を考え、選択肢を増やし、
新たな時代の食のスタンダードとして、
誰もが心から食事を楽しめる。
そんな世界の現実を支えたい・・・
それがGOODNOONの想いです。

4事業の技術を融合させることで、おいしい植物性素材を創出。

4事業の技術融合



豆乳クリームバター



ラーメンスープ
豚骨タイプ



プラントベース
チョコレート



プライムソイ



1章

不二製油のご紹介

2章

2024年度 連結業績

3章

成長戦略と課題への対処

4章

サステナブルな食の未来に向けて

未来年表（2050年）

【人口／経済／環境／食糧／ヘルスケア】

人口

90億人

CO₂排出量 1/5

65歳以上
の割合

17%

パーム油
充足率 80%

健康課題を
有する人口

43億人

カカオ
充足率 40%

パーム油、カカオの需要に対する供給の充足率

油脂酵母によるサステナブルな パーム代替油脂



カカオ豆由来の原料不使用の ミルクチョコレートタイプ



EXPO2025（大阪・関西万博）への出展

不二製油株式会社

- 出展期間 2025年8月13日～9月12日（除く、8月18日～8月24日）
- 出展場所 西ゲートゾーン W05 ORA外食パビリオン2F「宴～ UTAGE ～ラボ」
- プログラム
 - ・ MIRACORE® 国内外向け試食体験プログラム
 - ・ 新しくておいしい未来のレシピ体験プログラム
 - ・ チョコレートに関する食育プログラム
 - ・ チョコレート嗜好診断



ORAパビリオン外観



サステナブルな食の未来を共創します

Co-create a sustainable food future





不二製油株式会社

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、予想の前提、予測を含んで記載しており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。また、実際の業績は、今後様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

